

ふ く い

校 訓

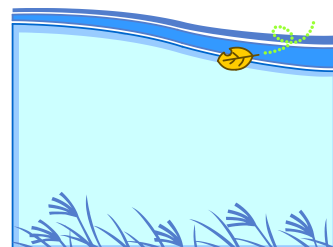
真実(まこと)をもとめ 身をきたえ ともにつとむる福井校

かしこく やさしく たくましく

ふるさと大好き福井っ子

2学期を迎えるに当たって

39日間の夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。今年は、気象庁が「命に危険があるような暑さである。1つの災害と認識している。」と異例の記者会見を開くほどの猛暑、酷暑、炎暑の夏でした。保護者の皆様、地域の皆様には、夏季休業中も子どもたちが安心・安全に過ごせるよう温かいご支援をいただきました。心から感謝申し上げます。



さて、学校に届けられる小冊子に「次の人のことを考える」と記載されているのを目にし、以前公共施設に掲げてあった「来たときよりも美しく」という言葉を思い出しました。使用した後は、次に使用する人が気持ちよく、そしてすぐに使えるように元通りにしましょう。使用した感謝の気持ちを込めて、使用する前よりもきれいにして、次に使う人に気持ちよく使ってもらおう。そういった意味が込められている言葉で、躰、マナーとして私たちが昔からいろいろな場面で教えられ、できる限り実践してきた行動を象徴した言葉・精神・文化ではないかと思えます。

6月から7月にかけてロシアで開催されたサッカーW杯ロシア大会でも、この精神に関わる出来事がありました。それは、『日本代表チームが試合で使用したロッカールームが試合前のようにきれいに掃除され、「ありがとう」とロシア語で書かれたメモが残されていた。』『日本人サポーター（応援者）が、スタジアム（試合会場）で試合後にゴミ拾いを開始し、それを見ていた対戦相手のサポーターもゴミ拾いを始めた。』というものです。これらの行為は世界の称賛・共感を受け、日本代表チームが決勝トーナメントに進出したサッカー以外にも世界に強い印象を残し、爽やかな余韻を残した大会であったと、当時掲載されていた記事はまとめていました。しかし、文化の違いにより、ゴミ拾いの費用はチケット代に含まれている、自分たちが片づけてしまえば清掃員の仕事を奪ってしまうかも知れないからゴミ拾いをすべきではない、という考えもあるとの記事も併記されていました。

グローバル社会に生きる子どもたちに、異なる文化・社会背景や事情をお互いに理解し合うことの必要性と重要性とともに、「次の人のことを考える」「来た時よりも美しく」という気持ちや行動の大切さを伝えていきたいと思えます。

本日、2学期をスタートさせました。1年のうちで最も勉強や運動に適した季節を迎え、運動会、音楽会、マラソン大会など大きな行事を予定しています。日々の学習とともに様々な行事を通して、仲間とともに創り上げる喜びや、やり切った達成感を味わってほしいと思えます。目標を持って行事に取り組むことで、自主的・主体的に活動する力を付けることも目指します。

日中はまだまだ暑さの厳しい毎日が続くことと思えます。保護者の皆様におかれましては、お子様の健康状態に十分留意していただき（早寝・早起き・朝ごはん、休養、栄養、運動等）、学校の生活リズムを一日も早く取り戻し、子どもたちにとって充実した学校生活となりますよう、ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

後になりましたが、2学期も福井小学校の教育推進に変わらぬご理解とお力添えをいただきますよう、保護者・地域の皆様、関係諸機関の皆様よろしくお願い申し上げます。

校長 中西 一就
教職員 一同